

平成19年度 事務事業評価表		担当	産業環境部 環境課				内線等	1282
事務事業名	環境啓発事業				事業コード	1. 一般事務事業（ソフト事業）		
根拠法令等	環境基本法、地球温暖化対策の推進に関する法律				A 法令	D その他		

総合計画での位置付け

基本目標	1. 人と自然が共生する潤いあるまちづくり	施策名	環境保全
------	-----------------------	-----	------

事務事業の内容

対象（受益者）	子供を含む市民、事業者に対して
手 段	出前講座や自然観察会、広報掲載等で環境にやさしい生活、活動を促す学習機会を提供することにより
想定する成果	環境意識の高揚を図り、実践してもらおう。

事業の概要

項 目	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画
広報がまごおり掲載回数	7回	4回	4回
主な講座	冬鳥観察会など	里山観察会など	里山観察会など
こどもエコクラブ募集	5クラブ 67人	3クラブ 60人	6クラブ 98人

成果指標

成果指標名	講座・クラブ等参加総人数
成果指標の説明	参加人数

事業の進捗状況（ 一般 会計 ）（単位：千円）

		平成18年度決算（実績）				平成19年度決算（実績）				平成20年度予算（計画）			
成果指標		476人				99人				463人			
成果指標													
事業費	事業費	303				188				204			
	人件費	4,670				4,686				4,707			
	(人数)	正規	0.6	非常勤		正規	0.6	非常勤		正規	0.6	非常勤	
	合計	4,973				4,874				4,911			
財源内訳	国												
	県												
	市債												
	その他												
	一般財源	4,973				4,874				4,911			

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	19評価	16評価	19評価	16評価	
達成度	2	2	2	2	出前講座の申込みがない年もあり、動員数のばらつきが多い。広報がまごおりの発行が月に1回となったことにより啓発記事記載の回数が減少した。
経済効率性	2	3	2	2	人件費が主で、事業経費が少なくてすむ。
事務効率性	2	3	2	2	人員が少ない中、現在の事務効率は限界ではないか。
必要性	3	3	2	2	多くの市民に環境意識を抱いてもらうため、必要性が高い。
小計	9	11	8	8	
施策への貢献度	2	-	2	-	メニューが少なく、他事業に割く比重が高いため、環境啓発事業としては十分に貢献しているとは言えない。
合計	11	11	10	8	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	A	B	B	事務事業の中でも、予算的人員的にも優先順位が低くならざるを得ないため、知恵を絞った経費がかからず効果的な啓発事業が求められる。
------	---	---	---	---	---

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

前回(H16評価時)「今後改善すべき点」として記載した内容及びその実施状況

前回(H16評価時に)記載した「今後改善すべき点」
参加者の能動的な活動で行われているかどうか、アンケートなどで検証をする必要がある。また、予算の許す範囲でインパクトがあり、動員数の多い講演を開くと良いのではないか。小中学校における総合学習で、児童生徒に訴える機会を増やす。
上記改善点の実施状況
従来の里山観察会に加え、県実施事業(地球温暖化対策講演、樹木の空気浄化能力チェック)による小中学校への学校単位の参加斡旋、環境DVD貸出事業(不都合な真実)など新規メニューを取り入れた。

今後さらに改善すべき点

県環境啓発実施事業の積極的な斡旋により、特に小中学校に対して行う。

平成21年度予算に反映する項目

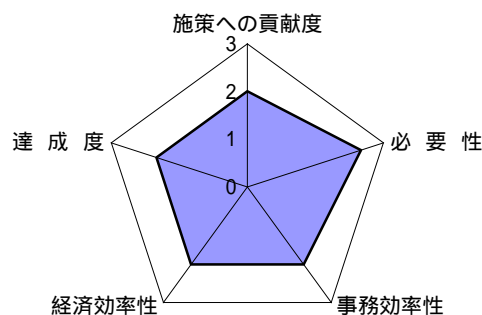
従来補助していた環境活動団体補助金(拾石川の環境を守る会補助金)の廃止。

今後の方向性

現状維持

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

内部管理事務事業、義務的事業は必要性を、また施策名がその他のものは施策への貢献度を評価していません。



課内評価と部長評価の平均点